

マラウイを通して、世界を見てみよう

実践場所	栃木県	茂木高等学校	実践者	篠崎 範子
対 象	1～3 年生(6 クラス)	時間数	36 時間	
担当教科	家庭科	実践教科	家庭基礎、子供の発達と保育、児童文化 フードデザイン、服飾文化	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・マラウイを知り、自分たちとの違いや現状を知り、解決策を模索する。 ・途上国支援や日本の現状から、自分が実現可能なことを考えて実践する。 			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	1・2	【マラウイってどんな国だろう？】 ・マラウイの場所やアフリカについて、想像する。 ・マラウイの中等学校生のペンケースキットを製作する。	・ワークシート ・ペンケースキット製作	
	3	【マラウイについて知ろう】 ・写真や動画の資料から、マラウイという国を知り、日本との違いを理解する。	・パワーポイント・ワークシート ・食品・新聞・ノート ・OVOP 商品	
	4	【海外の民族衣装を着てみよう】 ・被服の形に基づいた民族衣装の形態の違いを知り、気候や風土に合っていることを理解する。	・プリント ・民族衣装	
	5・6	【マラウイの素材で染色実習】 ・マラウイの自然素材で、さらしを染め、ランチョンマットを製作する。	・さらし・バオバブ ・コーヒー	
	7	【見えない水】 ・私達の食生活に隠されるバーチャルウォーターの存在を知り、実生活からできることを考える。	・パワーポイント・ワークシート ・ペットボトル	
	8	【ハンガーマップ】 ・WFP のハンガーマップから、世界の食糧支援と日本の食品廃棄量について知り、実生活からできることを考える。	・パワーポイント・ワークシート ・オレオ・ハンガーマップ	
	9	【マラウイ料理を作ってみよう】 ・シマトンヤマガヨを作り、五感でマラウイを感じる。	・メイズ・レシピ	
	10	【女性や子供の人権】 ・世界には女性や子供であることだけで差別を受けることがある事を知り、解決策を考える。	・パワーポイント ・ワークシート	
	11	【人々の生活を良くするには】 ・マラウイと日本を照らし合わせ、どうしたらマラウイが発展するかを考える。	・パワーポイント ・ワークシート	
	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・普段生活している中で不満と思っていたことは、実は幸せだったことに気がつく事ができた。 ・世界の中で裕福な立場にいる自分たちが、実現可能な社会貢献について考えられた。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・間接体験なので、生徒の感受性によって受け取り方の差に違いがある。 ・時間が経っても記憶を留めさせるには、どうしたら良いのだろうか。 			
備 考	・同じ教科のマラウイを知らない先生にも授業を受けてもらい、その先生のクラスでも授業を展開してもらうことができた。(1年生は、全員マラウイの授業を受けることができた。)			

[授業実践の詳細]

1-2 時限目 「マラウィって、どんな国だろう？」

1 子どもの活動の流れ

- ① マラウィ、アフリカについて、知っている事を書く。
- ② マラウィでは、家庭科や実習がほとんどないことを知る。
- ③ マラウィの子供たちが作るペンケースキットの下準備をする。
- ④ ペンケースにつけるモチーフの図案を考え、製作する。

この時限のねらい

自分が当たり前だと思っている授業の内容も、国によって違うことを知る。そして、遠い国の子供たちが学ぶための教材づくりに関わることで、社会貢献や国を超えた親近感を持つきっかけとする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ まず、「マラウィ」という国がどこにあるかも知らない生徒が殆どだった。アフリカに対するイメージも「野生動物、貧困、飢餓」というイメージが多かった。
- ◇ 自分たちが当たり前に行っている授業の実習は、他の国では「特別」なものであることを初めて知った。
- ◇ マラウィの生徒が、楽しく実習をしてくれることを想像しながらペンケースキットを作る生徒達も嬉しそうだった。放課後も自主的に製作に来てくれる生徒もおり、主体的に関わろうとする意欲も芽生えた。

3 使用した教材

<教材1>

事前アンケート

1 マラウィは、どこにあると思いますか？ 色を塗りましょう。



2 () と聞いて、得意な絵はありますか？

氏名 _____

3 アフリカについて、知っていることはありますか？

4 今の生活について、家庭科を学べないで残念、いいですか？ (正確な、正確な、1行書き)

得意	理由

5 幸せを感じる時は、どんな時ですか？

6 授業の経験の感想は、なんですか？

7 教材に関することで、マラウィについて知りたいたいことはありますか？

<教材2>

ペンケースキットを作ろう

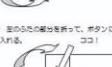
① フェルトの紙を10×4cmの紙に切る。(両角を丸くする、手前)



② 手前に向けて、手前の側の紙を2cm折り返す。(折り線は手前側で)



③ 両側の端の部分を折って、ボタンに当たる部分を2cm幅に折り込みを入れる。

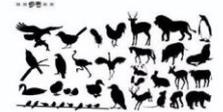


氏名 _____

④ ①の紙を折り、ペンケースに貼る絵を描こう。(図例)



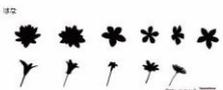
⇒ 動物でも分かる、おもしろいデザインがいいです。種がいろいろ、描きましょう。
※ 動物 ※




<教材3>

※※※デザイン集※※※

鳥



魚



動物



おもしろ



※大まかなデザインで、おもしろい絵を描こう。

動物



おもしろ



※大まかなデザインで、おもしろい絵を描こう。

<教材4>



3

時限目「マラウイについて知ろう」【異文化理解】

1 子どもの活動の流れ

- ① パワーポイントの写真や動画から、マラウイの基本情報(人口、宗教、経済、産業、教育、etc.)を知る。
- ② 製作に協力してくれたクラスのみ、マラウイのお菓子・パオバプの実の試食。

この時限のねらい

マラウイの国や文化を知り、最初にイメージした先入観を壊し、本当のマラウイを受け入れる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 世界で一番貧しい国でも、村の人皆で協力して子育てをしたり、ものを作るのが素敵だと思った。
- ◇ 私達が当たり前だと思っていることが、マラウイでは当たり前ではないことに驚いた。
- ◇ 私達は何不自由なく生活していますが、この生活は本当に幸せなのだなどと改めて気付かされました。

3 使用した教材

<教材1>

マラウイ独特の文化は何か

- ◆ 近隣の国と共通していますが、チデンジ(布)、グレワンクル(ダンス)、シマ(主食)、木彫り、パオ(マラウイ式ボードゲーム)



<教材2>

マラウイの紹介 Malawi-1		年 月 日 氏名
*日本から		*国名
*どこにある?		*ドナー
*どんな国?		*おしゃべり
*どんな人が住んでる?		*遊び
*主な宗教		*教科
*経済		*税人式
*産業		*特産
*教育		*子育て関係
*一日の過ごし方		*その他*

<教材3>



<教材4>



4 時限目「海外の民族衣装を着てみよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① 衣類の原型がどのような形から派生したのかを知り、類型の変化の形態を知る。
- ② マラウイのチテンジは、原型の巻付衣であることを知り、着装する。
- ③ 他国の民族衣装を選んで着装し、普段着ている服との違いを発表する。

この時限のねらい

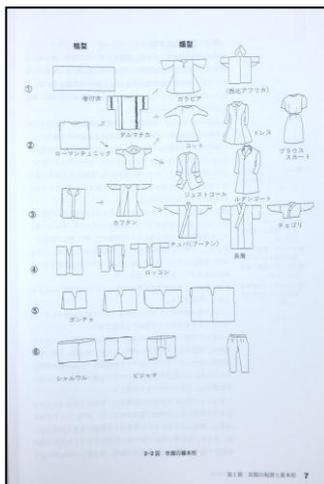
衣類の原型から類型までの服の形態の変化を知る。マラウイのチテンジを始め、外国の民族服を着装して、制服との違いを理解する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 初めて見て、着る民族衣装に興味して、何着も試着していました。
- ◇ 簡単に巻いて着られるチテンジは、とても着やすいと評判でした。
- ◇ ハンガーにかけて展示・保管をしていましたが、授業以外の生徒達もとても興味を持っていました。

3 使用した教材

<教材1>



<教材2>



5-6 時限目「マラウイの自然素材で染色実習」

1 子どもの活動の流れ

- ① マラウイの自然素材の色見本から、染めたい色を選び、染色する。
- ② 色見本から布地、レース、布ゴムを美しく配置する。
- ③ お弁当用のランチョンマットを製作する。

この時限のねらい

マラウイの自然素材や組み合わせる媒染によって、発色が変わる事を知る。また、どのような配置にしたら、それぞれのパーツが引き立つかを考えて、配置する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ バオバブの実から染まるナチュラルなピンク色とマラウイコーヒーのシックな組み合わせに人気が集まり、その組み合わせを好む生徒が多かった。

- ◇ 染色は、授業以外に休み時間に来て洗ったり、媒染につけたりするなどの作業があるのだが、自ら進んで活動していた。
- ◇ 世界に1つしかない、マラウイを感じる作品が完成した。

3 使用した教材

<教材1>



<教材2>



<教材3>



<教材4>



7 時限目「見えない水」

1 子どもの活動の流れ

- ① 食生活に隠させる「バーチャルウォーター」の概念をクイズ形式で学ぶ。
- ② 雨水の再利用を知り、海外でも広く活用されていること、マラウイでの「水」の使われ方を知る。
- ③ 自分の生活の中で、何ができるのかを考える。

この時限のねらい

日本人がありがたさを意識しない「水」についての世界的な概念を知り、食べ物について「水」という視点を通して品物を選ぶ視点を身につける。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 日本が「水」を大量に輸入・消費している事を知り、大変驚いていた。
- ◇ 「きたない水」でも大切に使っている人がいるのに、自分は「水」を無駄に使っていて、申し訳ない気持ちになった。
- ◇ 一見何気なく使っていた物や過ごした日々でも視点を変えることによって、世界を変えるアイデアになるということが分かった。今までの関わりのなかったことに触れることが大切なのだと思う。

3 使用した教材

<教材1>



<教材2>

8 時限目「ハンガーマップから見えること」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「世界が100人の村だったら」を参考に、クラスを後発途上国と先進国に分ける。
- ② 世界の食糧総生産をオレオクッキー100個と置き換え、その配分を考える。
- ③ 実際に配分されることで、途上国の現状を知る。
- ④ 世界の食糧支援と日本の食品廃棄について現状を知る。
- ⑤ 課題解決法を考え、発表する。

この時限のねらい

「世界が100人の村だったら」をベースに、ハンガーマップと世界の食糧支援と日本の食品廃棄について、世界の現実を受け入れ、自分の足元から何ができるのかを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分が思っていた以上に飢餓の進んだ国が多くて、悲しくなった。
- ◇ 今の生活に感謝して、皆が平等に暮らせるような社会を目指さなければならないと思った。
- ◇ 私達が食糧を無駄にせず支援に回せば、途上国の人々に食糧が回せるのではないかと思った。

3 使用した教材

<教材1>

Q5 100個のオレオの配分はどうなるでしょう？

- 先進国・・・1人？個×4人＝計？個
- 発展途上国・・・1人？個×36人＝計？個
- 動物の飼料・・・？個
- 食品廃棄・・・？個
- 計100個

<教材2>



<教材3>

ハンガーマップ Malawi-3

年 級 番 号

Q1

Q2

Q3 く 人

Q4 く 人

Q5 先進国 1人() 度 計() 度
途上国 1人() 度 計() 度
朝 食() 度
昼食() 度

Q6 世界の食糧支援()

Q7 日本の食糧支援()

Q8

Q9 どうしたらいいですか?
・食
・生活
・支援
・その他

Q10 感じたことを書きましょう。

WFP World Food Programme

<教材4>



9 時限目「マラウィ料理を作ってみよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① レシピより、マラウィ料理の作り方を再確認、「シマ」と「ンヤマヤガゴ(ひき肉と野菜の炒め煮)」を調理する。
- ② 試食して、遠いマラウィに思いを馳せる。

この時限のねらい

調理からマラウィの文化を体験し、調理・試食を通してマラウィを五感で感じる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「シマ」作りに失敗してしまった班もあったものの、おおむね美味しく作ることができた。
- ◇ 特に男子に「シマ」が人前で、「これなら、マラウィで生きていける！」と言い切る生徒もいた。
- ◇ 手で食べるのは難しかったが、とても美味しく出来上がって良かった。

3 使用した教材

<教材1>

■ 主食[シマ(Nsima)]

ケニヤなどでは、「ウガリ」なども呼ばれている、トウモロコシの粉で作る主食です。現地のトウモロコシ・メイズは日本のものと違い、白っぽい黄色で、粒は少し固く、甘みが少ないです。

マラウィ南部などでは、トウモロコシの代わりにキャッサバ(タロイモ)の粉を使ったシマもあります。なお、日本でトウモロコシの粉を手に入れるにはインターネット上で「コーンフラワー」と検索するとヒットします(GABAコーンフラワーなど)。ただし、同じ名前のハーブもあるため、掲載されている写真を確認した上で注文する事をお勧めします。ちなみに、これらのコーンフラワーはマラウィで作られているものは、色も風味も多少異なる(※以前、国内で手に入れたコーンフラワーで大変麗夫人に調理して頂いた所この粉はお菓子用なので、固まるまで時間がかかると思われる)。

マラウィ産のメイズフラワーが手に入れば一番なのですが、難い場合は赤豆を味わうという意味で、この「コーンフラワー」を使って調理してみてくださいいかがでしょうか？

	材料:(1人分)	・水800cc(カップ8杯) ・トウモロコシの粉200cc(カップ1杯)
	作り方	1) 水の入った鍋に、トウモロコシの粉をのり混ぜ、水に解かす。 2) 中火で煮ながら、ホペラで良く練る。 3) 粉っぽさがなくなったら、残り粉を4回に分けて混ぜ、良く練る。 4) 出来上がったから火を止める。蓋をして数分蒸らした後、お玉ですくい、半月形に整え固く蒸らす。冷めると固まりやすくなり、美味しくなるため、熱いうちに盛り付け、食べること!

<教材2>



10 時限目「女性や子供の人権について」

1 子どもの活動の流れ

- ① 女性や子供という弱い立場の人が、なぜ人権を侵害されるのかを知る。
- ② 途上国の子供たちが学校に行けない理由を8つ考える。
- ③ 学校に行けない理由を知り、行けるようになるための支援の方法を知る。
- ④ 課題解決法を考え、発表する。

この時限のねらい

他人との違いを認め、それを排除しないこと。弱い立場の人々が侵されている権利や人権を守る方法を知り、自分がどんな支援ができるか考え、行動するためのきっかけとする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 同じ人間なのに、どこかの国で差別がある事は間違っている。全ての国で人権が守られて欲しい。
- ◇ 日本では考えられない理由で学校に行けない子供達が沢山いることを知り、自分が当たり前と思っている生活の全てに感謝をしたいと思いました。
- ◇ インターナショナルからグローバルの協力体制に変えて、私達も何かできることに協力して途上国の現状を変えたい。

3 使用した教材

<教材1>



<教材2>

女性や子供の人権 Malawi-4		年 月 日
Q1		Q10
Q2		Q11
Q3 ()%		Q12
Q4 ()%		Q13
Q5		Q14
Q6		Q15
Q7		Q16
Q8		Q17
Q9		Q18 感じたことを書きましょう。

11 時限目「人々の生活を良くするには」

1 子どもの活動の流れ

- ① これまでの授業を振り返り、日本とマラウィとの違いを知る。
- ② マラウィが発展するためには、何が必要かを考える。
- ③ 「教育」が人々の生活を変えることを知り、支援の方法を考える。

この時限のねらい

マラウィ授業の総括として、開発途上国と先進国の違いから、発展するには何が必要で、具体的な支援はどんな方法があるのか学び、自分のできる支援について考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 一人一人の幸せの感じ方は、それぞれ違うものなんだと感じ、今の豊かな暮らしを送れることに感謝。
- ◇ 自分の生活・勉強を見直す機会になった。頭では分かっていたけれど、意識することはできなかった。
- ◇ マラウイについて学んで、とても他人事では済まされないと改めて感じました。今の私達にできることをして、少しでも役に立ちたいと強く思いました。

3 使用した教材

<教材1>



<教材2>

人の生活を良くするには Malawi		学 級 番 号
Q1		Q8
Q2		Q9
Q3		Q10
Q4 ()		Q11
Q5		Q12
Q6		Q13
Q7		

■ 全体を通して

1 授業の様子

<写真1>



<写真2>



2 参考文献・資料

- 1) 「世界がもし100人の村だったら」池田香代子 再話 C.ダグラス・ラミス 対訳
- 2) 「高等学校用 服飾文化」文部科学省
- 3) 国連 WFP <http://ja.wfp.org/hunger-jp/map>
- 4) 国際 NGO ワールド・ビジョン・ジャパン http://www.worldvision.jp/learn/index.html?link_id=tnav01
- 5) 日本マラウイ協会 http://www.japan-malawi.org/useful_infomation/
- 6) 新 TOSS ランド <http://www.tos-land.net/>
- 7) 独立行政法人 国際協力機構 JICA 地球ひろば 国際理解・開発教育 <http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/education/>

以上